

令和 6 年度 緑が丘小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

実践を通して、自ら学び続ける力を身につけながら、心豊かにたくましく生きていく児童の育成

(2) 具体目標

【合言葉】みどりの子 明るく やさしく 根気よく

「自分をつくり自立する子（生きる力）」

・友達をつくり力を合わせる子（社会性）

・豊かな心をつくる子（感受性・想像力）

・丈夫な体をつくる子（意欲・気力・体力）

・確かな考えをつくる子（課題解決力・主体性）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

豊かななかかわりを通して、共に学び、誰もが生き生きとかがやく学校

◇ 児童一人一人が認められ、夢や目標に向かって他と協働しながら意欲的に学ぶ学校

◇ 教職員がそれぞれのよさや専門性を発揮し、協働する学校

◇ 家庭や地域とのつながり（情報共有）を大切にし、保護者や地域住民から信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

学校経営の理念を以下のように捉え、その実現のための方針を(1)～(7)とする。

「豊かななかかわり」とは …児童一人一人がよさや可能性を認め合いながら、多様ななかかわりをもつこと。

「共に学び」とは …児童が互いのよさや可能性を発揮しながら協働し、学びを深めること。

「生き生きとかがやく」とは …児童が意欲的・主体的に力を発揮すること。

児童が達成感や充実感を実感すること。

児童が自己の存在や変容を肯定的にとらえること。

(1) 児童一人一人のよさや可能性を認め、自己肯定感をもてる学年・学級経営に努める。

(2) 豊かななかかわりを生み出すために、授業での交流の場、異学年交流の場、縦割り班交流の場などを工夫する。

○(3) 主体的・対話的で深い学びを目指した子供主体の授業改善に取り組み、一人一人が自分ごととして課題解決に取り組むことを通して、各教科等の資質・能力を育成することができるようにする。

○(4) 自他の生命を尊重し、健康で安全な生活が送れるよう、自ら進んで体力づくりを行ったり望ましい生活習慣を身に付けたりする態度の育成に努める。

(5) 児童一人一人の教育的ニーズを把握し、児童の様々な状況に応じた指導・支援に努める。

○(6) 家庭や地域との連携を密にし、地域の教育資源を効果的に活用することで、児童の健全な成長を促す。

(7) 働きやすく働きがいのある職場環境を整えることで、ゆとりをもって児童と向き合うことができる働き方改革を推進する。

【陽南地域学校園教育ビジョン】

主体的に活動できる子どもを育む 小中一貫教育

4 教育課程編成の方針

(1) 教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則等の法令及び学習指導要領に則り、栃木県教育委員会の指導方針、「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」並びに小中一貫教育の趣旨に従い、本校の教育目標の達成を期するよう学校経営方針に基づいて教育課程を編成する。

(2) 学校教育目標の具現化を図るために、地域や本校の実態、児童の心身の発達段階や特性を配慮して、教育活動全体にわたって確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を図るよう編成する。

(3) 基礎的基本的な知識及び技能の確実な定着を図るとともに思考力、判断力、表現力等の育成を図り、学び

に向かう力、人間性等を涵養することが偏りなく実現されるよう、教育活動全体にわたって創意工夫をし、学校教育目標が達成されるようにする。

- (4) 児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てていき、教育課程の実施状況を評価して、その改善を図る。また、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図る。そして、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくよう努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- 学校経営の理念「豊かなかかわりを通して、共に学び、誰もが生き生きとかがやく学校」の具現化を目指す。
 - ・ 目指す児童の姿や育てたい資質・能力を明確にし、それを全教職員で共有した上で、各教育活動を展開する。
 - ・ 子供主体の授業改善に努めることで、学び合える集団づくりや個々の学力の向上、自己肯定感の高揚を図る。
 - ・ 豊かなかかわりを生み出す交流活動の工夫により、他者とのかかわり方を学び、他者とかかわることのよさを実感できるようにする。
 - ・ 教科担任制や特別支援教育の視点を重視した指導・支援により、多様な観点で児童の特性を捉え、個々のよさや可能性を認めることができるようにする。
 - ・ 校務の焦点化や ICT を活用した効率化、職務への協働的な取組により、勤務時間の適正化を図るとともに、自己の働き方をマネジメントすることで、働きがいにつながる働き方改革を行う。

(2) 学習指導

- 主体的に考え、協働する授業をつくる
～よさと可能性を発揮して課題解決する学級活動を軸として～

(3) 児童指導

- 集団生活の中で決まりを守り、思いやりの心をもって協力して活動できる児童の育成を目指す。

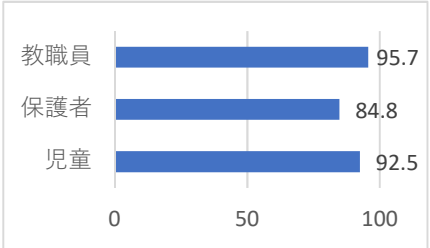
(4) 健康（体力・保健・食・安全）

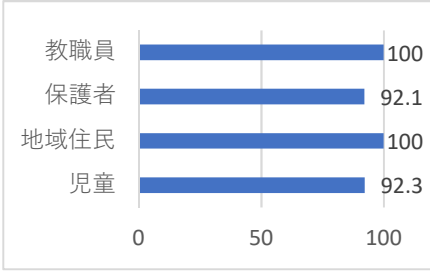
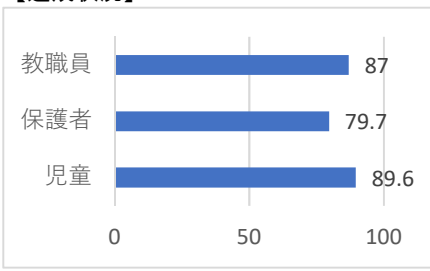
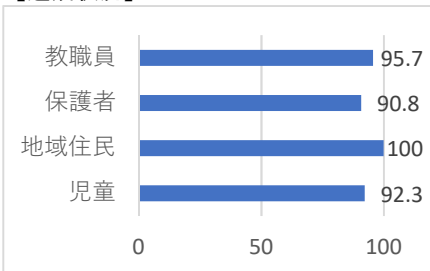
- 心身ともに健康で安全に生活するために主体的に判断できる児童の育成を目指す。

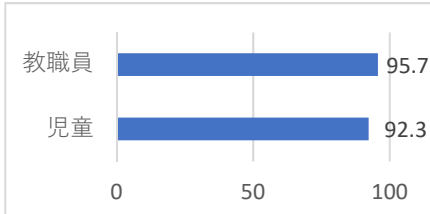
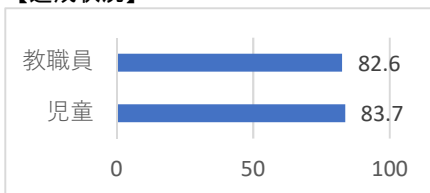
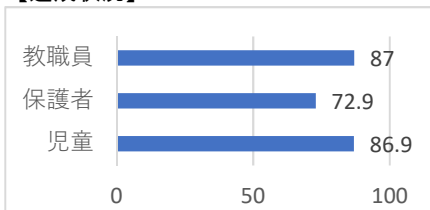
6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

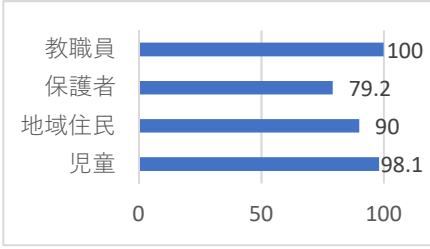
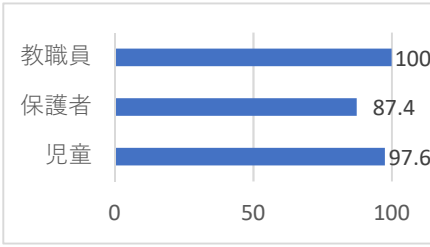
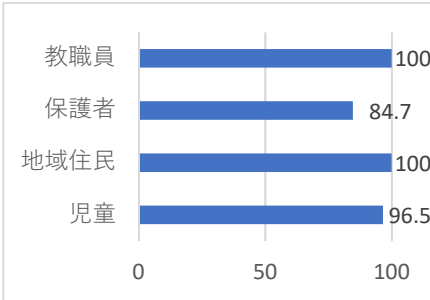
※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

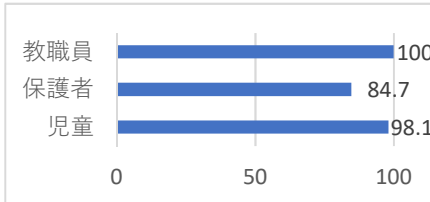
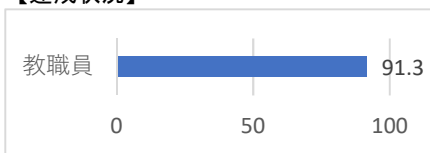
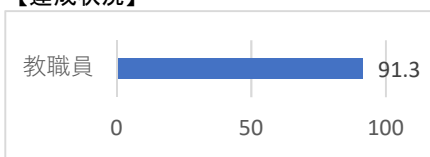
第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	① 学習課題を解決するために、話をじっくり聞いたり、発表したりするなどの学び合いを通して、児童が主体的に考え協働して学習に取り組めるようにする。 ② 国語科や特別活動の話し合い活動の実践を他の教科等にも生かして、主体的に話し合い活動を実践する力の育成を図る。 ③ 学習に進んで取り組む意欲を高めるために、宇都宮モデルを生かし、学習の始めには学習のめあてを設定し、見通しをもって学習に取り組み、振り返りの時間を設け、自己の学びの確認につながる授業の工夫をする。 ④ 1人1台端末を積極的に活用し、必要な情報を集め考えることを通して、進んで学習に取り組めるようにする。	B	【達成状況】  教職員 95.7 保護者 84.8 児童 92.5 教職員・児童の肯定回答は、指標を達成したが、保護者では 5.2 ポイント指標を下回った。 【次年度の方針】 教職員が学び合いを大切にした授業展開に努め、児童が主体的に学習に取り組めるよう工夫していく。日々の児童の取り組みがホームページに随時発信されていることを、保護者に周知していく。

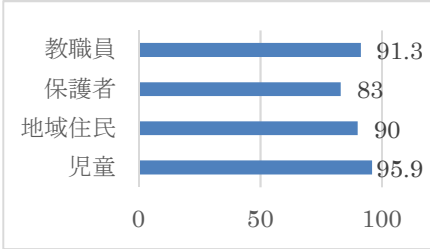
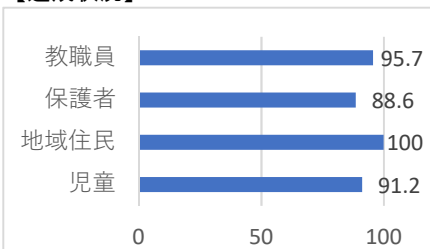
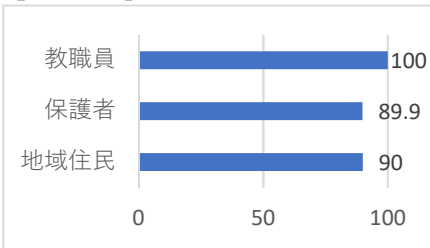
1- (2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	① 友達を呼ぶ時に「～さん」と呼ぶことを徹底し、道徳教育や人権教育の指導を充実させ、思いやりの心を育てていく。 ② 学校行事等との関連を図り、個に応じた指導の充実を図る。 ③ 教師の率先垂範による好ましい言語環境の構築を図り、相手の気持ちを考えた言葉遣いのできる児童を育成する。 ④ 縦割り班活動や縦割り清掃等の異学年交流の充実を図り、自他を認める心や協力しようとする態度を育む。	【達成状況】  対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員・地域住民においては100%であった。 【次年度の方針】 異学年交流等の充実を図り、自他を認める心や相手を思いやる心を育てられるようにする。
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	① 夢や目標に向かって努力することの大切さについて指導するとともに、児童の内面を共感的に受け止め一人一人を大切に、やる気と自己有用感に満ちた児童を育成する。 ② 児童が集団の中で自分らしさを発揮し、他と協働する体験や、競い合い高め合う体験を重ね、望ましい集団を育てる。 ③ キャリアパスポートを活用し、本人の目標や取組を認め励ます指導により自尊感情、自己肯定感を高め、その様子を HP や学年だよりで家庭に知らせるようにする。	【達成状況】  教職員では 3.0 ポイント、保護者では 10.3 ポイント、児童では 0.4 ポイントと指標をすべて下回った。 【次年度の方針】 学級活動を軸として、目標設定から活動の振り返りを行い、次回の活動に意欲をもって取り組めるように指導を行っていく。
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	① 食育指導、給食指導、歯みがきや保健委員会の取組など、学校生活の中の様々な保健安全指導を通して、基本的な生活習慣を身に付け、衛生的・健康的な生活ができるよう自ら健康安全について考えさせる場を設定する。 ② 各教科等における安全に関する指導の充実を図り、ルールやマナーの指導を徹底し、児童自ら怪我や事故の未然防止に努めるよう指導する。 ③ 手洗い・消毒・換気などを継続的に行って感染症予防に努めながら、自ら場に応じた行動をするよう適宜指導を行う。	【達成状況】  対象において、肯定回答は指標を達成し、地域住民においては 100%であった。 【次年度の方針】 日頃から、児童が自身の健康について意識して行動できるよう、養護教諭、学校栄養職員と連携し、健康安全教育を徹底していく。

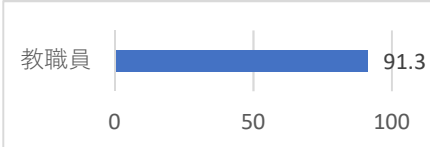
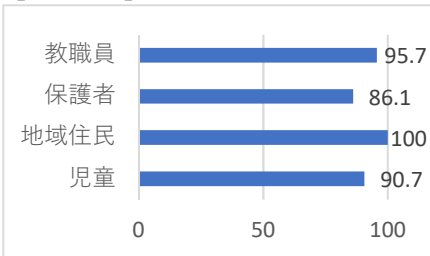
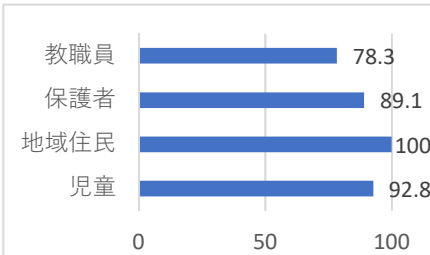
1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして進んで生活をよりよくしようとしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	① Q-U 検査やお話タイム等を活用し、児童一人一人の思いを受け止め、よりよい学級とするための手立てとする。 ② 自己有用感を高める道徳や学級活動等を実施し、望ましい人間関係の形成や児童が自己決定できる場の設定を図る。 ③ キャリアパスポートを利用しながら学校行事等について、教師から児童へ積極的な声掛けを行う。明確な目標を立てて体験的な活動に取り組み、意図的・計画的・継続的に行い、達成感や成就感の高揚を図る。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>95.7</td></tr><tr><td>児童</td><td>92.3</td></tr></table> 対象において、肯定回答は指標を達成した。 【次年度の方針】 学校生活の中で協働する活動を設定し、自己や他者を認められるように指導することで、自尊感情や自己肯定感を高められるようにする。	対象	達成率 (%)	教職員	95.7	児童	92.3		
	対象	達成率 (%)									
	教職員	95.7									
児童	92.3										
2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	① 教材研究の充実やALTとの連携により、英語によるやりとりを中心とした授業実践や興味をもてる授業や内容の工夫を推進する。 ② 学校行事等へのALTの参加やALTとの交流の場の工夫を行い、生きた英語に触れる機会の充実を図る。 ③ 教材等、備品の管理や校内掲示の工夫を行い、外国語活動に向けた環境整備の推進を図る。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>82.6</td></tr><tr><td>児童</td><td>83.7</td></tr></table> 教職員では 7.4 ポイント、児童では 6.3 ポイントと、対象において、肯定回答は指標をすべて下回った。 【次年度の方針】 引き続きALTと連携し、教材研究や授業内容の充実を図ることで、英語によるコミュニケーションの楽しさを実感できる場を増やすようにしていく。	対象	達成率 (%)	教職員	82.6	児童	83.7		
対象	達成率 (%)										
教職員	82.6										
児童	83.7										
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	① 生活科・社会科・総合的な学習の時間・道徳等の学習において、地域や郷土に関連付けた課題の設定を行う。 ② 特別活動（学校行事等）・校外学習における体験的な学習の場を設定し、保護者にもその様子を発信し、児童が郷土宇都宮に対する理解を深められるようにする。 ③ 宇都宮学の学習を通して、宇都宮の良さについて学習する。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>87</td></tr><tr><td>保護者</td><td>72.9</td></tr><tr><td>児童</td><td>86.9</td></tr></table> 教職員・児童では、肯定回答が指標を達成したが、保護者では 7.1 ポイント指標を下回った。 【次年度の方針】 宇都宮の良さに関して、児童の興味関心がより高まるように、幅広く宇都宮について教職員が学ぶ機会を増やす。また、日々の児童の取り組みや校外学習等の様子をホームページ等で発信することで、保護者が宇都宮の学習の良さの視点を広げられるようにしていく。	対象	達成率 (%)	教職員	87	保護者	72.9	児童	86.9
対象	達成率 (%)										
教職員	87										
保護者	72.9										
児童	86.9										

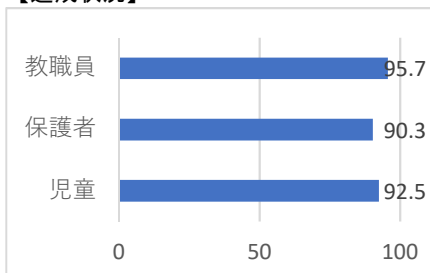
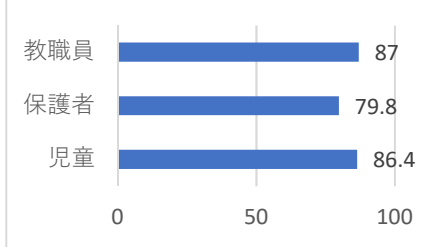
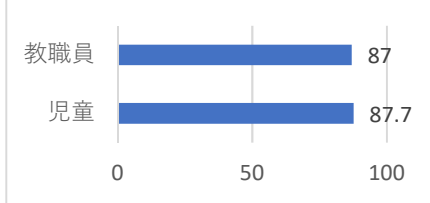
2ー(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等 を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯 定的回答 90%以上	① 授業実践を通して、デジタル・シ ティズンシップ教育を行う。 ② デジタル教科書や I C T 機器の効 果的な活用を行い、情報活用能力 の育成を図る。 ③ 朝の全校読書を充実させるととも に、多様な教科で図書資料を有効 に活用した学びを充実させるため に、学習ニーズに基づいた関連図 書情報の提供や市立図書館との連 携を行う。	【達成状況】 <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>95.7</td></tr><tr><td>保護者</td><td>79.3</td></tr><tr><td>児童</td><td>86.1</td></tr></table> 教職員の肯定回答は、指標を達成し たが、保護者では 10.7 ポイント、児童 では 3.9 ポイント指標を下回った。 【次年度の方針】 引き続き I C T 機器や図書資料を有 効に活用した学びを充実させていく。	対象	達成率 (%)	教職員	95.7	保護者	79.3	児童	86.1
対象	達成率 (%)										
教職員	95.7										
保護者	79.3										
児童	86.1										
2ー(3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な 社会」について、関心を もっている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等 の『持続可能な社会』につい て、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	① 社会科・理科・生活科・総合的な 学習の時間・家庭科・特別活動に おいて「持続可能な社会」と関連 する学習活動の見直しや児童の実 態に応じた具体的な活動内容の検 討を行い、年間指導計画を作成す る。 ② 環境委員会主導で「持続可能な社 会」(S D G s) に対する児童の関 心を高め、ごみの分別・残菜を減 らす取り組み・節電・節水などに 対して意識を高め実践する。 ③ 「持続可能な社会」(S D G s) へ の取組の意義を考えさせ、取組へ の動機づけを図る。	【達成状況】 <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>78.3</td></tr><tr><td>児童</td><td>90.7</td></tr></table> 児童の肯定回答は、指標を達成した が、教職員では 11.7 ポイント指標を下 回った。 【次年度の方針】 児童の意識は高まってきているため、 引き続き教職員一同意識を高め、「持続 可能な社会」への取り組みを実践して いく。	対象	達成率 (%)	教職員	78.3	児童	90.7		
対象	達成率 (%)										
教職員	78.3										
児童	90.7										
3ー(1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必 要とする児童や外国人児童等 の実態に応じて、適切な支援 をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① おはなしタイム（教育相談）や保 護者との懇談を通した児童理解の 推進を図る。 ② 校内支援委員会やケース会議を活 用して、指導目標・指導の手立て 等の検討を行い、組織的指導の充 実に努める。（会議の内容を全職 員で共有していく） ③ 困り感を抱えた児童が自信をも って生活できるよう、かがやきル ームにおける指導の充実を図る。 ④ 特別支援教育の視点を生かした児 童指導・授業づくりについての研 修を充実させる。	【達成状況】 <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>95.7</td></tr></table> 対象において、肯定回答は指標を達 成した。 【次年度の方針】 校内支援委員会を活用することで、 教職員間で情報を共有し、組織的指導 の充実に努めるとともに、職員研修の 充実を図る。	対象	達成率 (%)	教職員	95.7				
対象	達成率 (%)										
教職員	95.7										

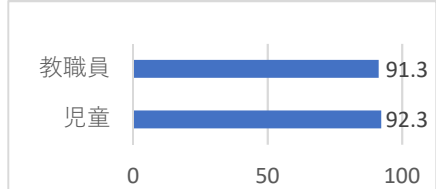
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	① 学年・学級懇談会や学校だより、HP 等で積極的に学校の方針を説明・公表するとともに、保護者や地域といじめに関する情報交換に努める。 ② 「いじめは絶対に許さない」、「いじめには大人が介入する」を全教職員で認識し、児童の主体的な取組（いじめゼロ集会）も促しながら、未然防止、早期発見・早期解決に組織的に取り組む。 ③ 「いじめゼロ集会」の実施を行い、いじめゼロ強調月間の取組を積極的に発信することで、学校の取組を保護者や地域と共有し、協力して児童を見守る体制を作っていく。 ④ おはなしタイム（教育相談）、Q-U 検査等を活用した実態把握の工夫や年4回のいじめアンケートの実施と結果の効果的な活用を図る。	【達成状況】  教職員 100 保護者 79.2 地域住民 90 児童 98.1 教職員・地域住民・児童では、肯定回答が指標を達成したが、保護者では 10.8 ポイント指標を下回った。 【次年度の方針】 いじめに対する学年での取り組みや、児童の主体的な取り組み（いじめゼロ集会等）を積極的に家庭・地域に発信することで、学校の取り組みを保護者や地域に周知していく。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	① 学年・学級経営計画に基づいた意図的・計画的な指導や教師と児童の協働・共遊を通して、居心地がよく、明るく活力に満ちた学級風土づくりを推進する。（学級活動や特別活動等の活用） ② おはなしタイム（教育相談）・Q-U 検査の結果やスクールカウンセラーの効果的な活用にも努め、児童の内面を共感的に受け止め児童一人一人を大切にする。 ③ 日々の様子の記録等を活用した情報共有を推進し、対策委員会での共通理解に基づいた組織的計画的な支援を推進する。 ④ 別室登校支援等、児童の実態に応じた支援策の工夫に努める。	【達成状況】  教職員 100 保護者 87.4 児童 97.6 教職員・児童では、肯定回答が指標を達成したが、保護者では 2.6 ポイント指標を下回った。 【次年度の方針】 おはなしタイムやQ-U 検査の結果を活用し、児童一人一人の良さを認め、居心地の良い学級づくりに努める。
	3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実 A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	① 普段から児童の声に耳を傾けるとともに、おはなしタイム（教育相談）や懇談などを通して、本人の困り感を把握し、学校全体として本人の居場所の確保に努める。 ② 宗教や国籍や健康状態等を考慮し、事前に話し合い、学校行事への参加について判断する。 ③ Q-U 検査の結果などを活用し、本人だけでなく学級全体の様子を把握・指導することで、互いに認め合える集団づくりに努める。 ④ 名前を呼ぶ時には、「～さん」付けで呼ぶことを徹底し、教師も率先垂範を心がけ、児童一人一人の人権を意識した生活を推進する。	【達成状況】  教職員 100 保護者 84.7 地域住民 100 児童 96.5 教職員・地域住民・児童では、肯定回答が指標を達成したが、保護者では 5.3 ポイント指標を下回った。 【次年度の方針】 児童一人一人に具体的な場面で教職員が声をかけることで、自己肯定感をもてるようにする。教職員は、日常から児童の様子を共有し、学年会や学年主任会等で児童の困り感について把握し、学校全体で児童をサポートしていく体制づくりを行う。

4－(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業 や児童にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】全体アンケート 「先生方の授業は分かりやす く、一人一人に丁寧に教えて くれる。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯 定的回答 90%以上	① 自己研鑽や学年共同での授業研究 等を積極的に行い、児童一人一人 が意欲をもって取り組める授業の 工夫に心がけ、学力向上に努め る。 ② T・T や少人数による習熟度別学 習を充実させるとともに、特別支 援教育の考え方を生かした指導を 行うことで、個に応じた指導の充 実を図る。 ③ 朝の学習や授業中に、I C T（特 に1人1台端末）を効果的に取り 入れ、個に応じた指導ができるよ うにする。 ④ 朝の学習や授業中に習熟を図る時 間を意図的に設定するとともに、 家庭学習について「家庭学習のヒ ント集」（陽南地域学校園）を活 用し、具体的な指導・支援を行う ことにより、基礎・基本の確実な 定着を図る。	【達成状況】  <table><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>84.7</td></tr><tr><td>児童</td><td>98.1</td></tr></table> 教職員・児童では、肯定回答が指標 を達成したが、保護者では 5.3 ポイ ント指標を下回った。 【次年度の方針】 今後とも、教職員による分かる授業 の工夫を心がけ学力向上を目指すと ともに、個に応じた指導も充実させ ていく。日々の児童の学習への取り 組みをホームページ等で発信して いく。	教職員	100	保護者	84.7	児童	98.1
教職員	100								
保護者	84.7								
児童	98.1								
4－(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力的 に業務に取り組んでい る。 【数値指標】全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチ ームとなり、協力して業務に 取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90% 以上	① 管理職（副校長）による総合的な 連絡調整の実施に努める。 ② 担当教職員との綿密な打ち合わせ を行うとともに、関係教職員への 積極的な情報提供の推進にも努 め、連携を密にし、チームとして 組織的に対応する。 ③ 校内支援委員会等の各種委員会に 専門性を有する教職員を組織の一 員として、積極的な情報提供や意 見を反映できるようにする。	【達成状況】  <table><tr><td>教職員</td><td>91.3</td></tr></table> 対象において、肯定回答は指標を達 成した。 【次年度の方針】 学校全体で連携を高められるよう に、情報共有の場を今まで以上に増 やし、より組織的な対応を図る。学 校内における情報伝達を素早く、 正確に行えるように教職員同士が 情報機器を活用する場面を増やし ていく。	教職員	91.3				
教職員	91.3								
4－(3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組 んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間 を意識して、業務の効率化に 取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90% 以上	① 校内働き方改革計画を全職員で共 有し、「働きがいがあり、働きや すい学校」を目指す。 ② 各教育活動の意義や目的を明確に し、業務の重点化を図ることで改 善できることに迅速に取り組み、 業務縮減を実現する。 ③ リフレッシュデーの計画的な実施 により、各教職員のタイムマネジ メント力を向上させる。	【達成状況】  <table><tr><td>教職員</td><td>91.3</td></tr></table> 対象において、肯定回答は指標を達 成した。 【次年度の方針】 教職員より業務について出た意見 を精査し、働きがいのある業務へ の重点化をめざすことで、児童一 人一人への対応に注力できる体制 を整備していく。	教職員	91.3				
教職員	91.3								

5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 地域学校園として、各教科で身に付けさせたい力を年間指導計画に位置付け、教職員が9年間で児童を育てる意識がもてるようにする。 ② 小中連携を密にし、小中一貫教育研修会の各部の話し合いの内容や乗り入れ授業の内容を全教職員で共有し、共通理解を図る。 ③ 給食だよりや図書館だより等の地域学校園共有発行を推進する。 ④ 小中合同のあいさつ運動や中学校訪問の機会を通して、児童生徒相互の交流を推進するとともに、小中に限らず地域にも呼びかけ、地域ぐるみで挨拶運動に取り組むようにする。	【達成状況】  対象において、肯定回答は指標を達成した。すべての回答が前年度の指標を上回った。 【次年度の方針】 今後も、地域学校園と協力した学校教育活動に、児童による主体的な参加を促すことができるような取り組みを行っていく。
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	① 学校便り、学年便り、保健便り、食育便り、図書館便り等の工夫と定期的発行やホームページでの情報の積極的な発信・提供を行い、家庭・地域・企業等との連携・協力を推進する。 ② 生活科や総合的な学習の時間における体験活動を中心とした交流活動の推進や地域団体・地域人材の積極的な活用を通して、地域と共に歩む魅力ある学校づくりを推進する。 ③ 外部講師の積極的な招聘に取り組み、体験的な活動のさらなる充実をめざす。	【達成状況】  教職員・地域住民・児童では、肯定回答が指標を達成したが、保護者では1.4ポイント指標を下回った。 【次年度の方針】 学校での教育活動の充実についての発信・情報提供は今後も継続していく。地域や企業との連携をより推進し、児童が豊かな体験的活動を行えるようにしていく。
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	① 縦割り班清掃活動の児童と教師の協働による日常の清掃活動等を充実させ、環境の保全に努める。 ② 長期休業前の清掃強化週間の有効活用や、保護者の協力のもと奉仕活動の充実を図り、利用者のことを考えた学校環境づくりを行う。 ③ 地域協議会と連携し、安全・安心な環境づくりの推進に努める。 ④ 安全点検結果に基づく、計画的な修繕の実施に努め、修繕補修を迅速に行い、安全な学習環境づくりを推進する。	【達成状況】  教職員・地域住民では、肯定回答が指標を達成したが、保護者では0.1ポイント指標を下回った。 【次年度の方針】 児童が安全に学校生活を送れるように、日々の清掃や毎月の安全点検の充実を図る。また、地域の方とも連携し、プールの見守り等のボランティアも募る等、安全な学習環境づくりを協力して行っていく。

6- (2) 学校のデジ タル化推進	A20 コンピュータなどのデ ジタル機器やネットワー クの点から、授業（授業 準備も含む）を行うため の準備ができている。 【数値指標】全体アンケート 「コンピュータなどのデジ タル機器やネットワークの点か ら、授業（授業準備も含む） を行うための準備ができいて る。」 ⇒教職員の肯定的回答 90% 以上	① 職員研修により、1人1台端末を 日常的に文房具として活用した授 業づくりを行うためのスキルを身 に付け、実践力の高揚を図る。 ② 学校用グループウェア・校務支援 システム・デジタル連絡ツールの 効果的な活用について全教職員で 共有する。 ③ 作成データの保存や管理を組織 的・計画的に行う。	【達成状況】  対象において、肯定回答は指標を達 成した。 【次年度の方針】 教職員間でのICT機器活用の研修 をさらに充実し実践力を高めたり、授 業等の作成データの教職員間で共有し 活用したりするなど、教職員がICT 機器を授業で生かすことができる環境 づくりを進めていく。
小・中学 校、地域 学校共 通、本校 の特色・ 課題等	B1 児童は、時と場に応じ たあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあい さつをしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地 域住民の肯定的回答 90%以 上	① 代表委員会の計画であいさつ運動 強化週間を実施したり、あいさつ 標語を掲示したりするなど、児童 の主体的な活動によるあいさつの 励行に努める。 ② 陽南中学校地域学校園や、緑が丘 小学校魅力ある学校づくり地域協 議会との連携を図り、保護者、地 域と連携協力したあいさつ運動を 実施する。 ③ 下学年では、積極的に元気にあい さつするよう指導し、上学年では 状況に合わせて会釈を活用してい くなど、学年に応じ工夫したあい さつができるようにする。	【達成状況】  教職員・地域住民・児童では、肯定 回答が指標を達成したが、保護者では 3.9ポイント指標を下回った。 【次年度の方針】 今年度と同様に、地域や保護者、地 域学校園と協力し合い、あいさつ運 動の励行を図る。児童会を中心としたあ いさつ隊によるあいさつ活動の充実を 継続していく。
	B2 児童は、きまりやマ ナーを守って、生活 をしている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを 守って、生活をしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域 住民の肯定的回答 90%以 上	① 基本的生活習慣を身に付けようと する意識を高めるために、「緑が 丘小生活のきまり」を各学級に掲 示し、きまりの意義を考えさせ、 重点目標について繰り返し指導す る。 ② 児童（運営委員会）が主体となっ て、行事等に合わせた生活目標を 設定し、児童のきまりを守ろうと する意識を高めとともに、全教職 員で重点的な指導に当たる。	【達成状況】  地域住民・児童では、肯定回答が指 標を達成したが、教職員では 11.7 ポイ ント、保護者では 0.9 ポイント指標を 下回った。 【次年度の方針】 学級活動を通して児童に学級の決ま りやマナーを考えさせることで規範意 識を高め、生活の中で実践できるよう に繰り返し指導していく。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 3 児童生徒は、コミュニケーションをとることで生活をより良くしようとしている。 【数値指標】全体アンケート ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	① 国語や学級活動で、話し合いの仕方を学ぶことを通して、積極的にコミュニケーションを取り、問題を解決しようとする態度を育てる。 ② 道徳の学習において、相手の立場になって考えたり、考え議論したりすることを通して、一人一人の自己肯定感を育て、自他を認め、思いやりの心を育てていく。 ③ 学級活動や児童会活動の自治的活動を通して、コミュニケーションをとることで、課題を解決することの良さを実感できるよう支援する。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>95.7</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.3</td></tr><tr><td>児童</td><td>92.5</td></tr></table> 対象において、肯定回答は指標を達成した。 【次年度の方針】 学級活動や児童会活動で話し合う機会を設け、児童が積極的にコミュニケーションをする良さを感じ取る場面を数多く設定していく。	対象	達成率 (%)	教職員	95.7	保護者	90.3	児童	92.5
対象	達成率 (%)										
教職員	95.7										
保護者	90.3										
児童	92.5										
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 4 児童生徒は、宿題や自主学習、読書など家庭学習をしている。 【数値指標】全体アンケート ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	① 1、2 年では、宿題や音読、読書などに取り組み、家庭学習に取り組めるようにする。3 年生以上では、陽南地域学校園「家庭学習のヒント集」を活用し、毎日家庭学習に取り組めるようにする。 ② 発達の段階に応じて、「計画・テスト・分析・練習」の PDCA サイクルで自主学習が行えるよう、学級懇談会や学習指導便りで家庭に伝え、毎日計画的に家庭学習に取り組めるようにする。 ③ 学びへの興味・関心を高める授業づくりに努め、授業の復習や発展学習、予習などに自ら取り組もうとする学ぶ意欲の継続を図る。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>87</td></tr><tr><td>保護者</td><td>79.8</td></tr><tr><td>児童</td><td>86.4</td></tr></table> 教職員では 3.0 ポイント、保護者では 10.2 ポイント、児童では 3.6 ポイントと、対象において、肯定回答は指標をすべて下回った。 【次年度の方針】 宿題の意義を学級懇談会や学習指導便りで家庭に伝えて、保護者との共通理解を図り、授業の復習や発展学習、予習などに自ら取り組もうとする意欲を高めていく。	対象	達成率 (%)	教職員	87	保護者	79.8	児童	86.4
対象	達成率 (%)										
教職員	87										
保護者	79.8										
児童	86.4										
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 5 児童は、体力づくりに関心をもち、進んで体力の向上に励んでいる。 【数値指標】児童・教職員アンケート 「自分は、運動集会や、検定するとき、目標に向かって努力している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	① 各種検定カードの効果的な活用を図り、自分のめあてに向けた体力づくりの推進に取り組むとともに、家庭でも取り組んでいけるよう呼び掛けていく。 ② 「うつのみや元気っ子健康体力チェック」の結果分析を生かし、年間を通した体力向上に取り組む。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>87</td></tr><tr><td>児童</td><td>87.7</td></tr></table> 教職員では 3.0 ポイント、児童では 2.3 ポイントと、対象において、肯定回答は指標をすべて下回った。 【次年度の方針】 休み時間の外遊びを全児童が行えるよう、運動委員会のイベントを行ったり、各クラスで外に遊びに出るように注意喚起をしたりする。	対象	達成率 (%)	教職員	87	児童	87.7		
対象	達成率 (%)										
教職員	87										
児童	87.7										

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 6 豊かな人間関係力を育てる場を工夫し、社会性の育成に努めている。 【数値指標】児童・教職員アンケート 「学級活動や縦割り活動で、友達と協力して進んで活動している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	① 係活動や当番活動など自主的な活動を通して、学級での人間関係力を高める。 ② 特別活動の研究を生かし、児童会活動や縦割り班活動がより児童の主体的な活動となるよう工夫する。 ③ 委員会活動やクラブ活動において児童による自治的な活動を実践する。児童の良さを生かして皆に認められ、自己肯定感を感じられる場を意図的に設定する。（縦割り班活動や児童集会の活用）	【達成状況】  <table><tr><td>教職員</td><td>91.3</td></tr><tr><td>児童</td><td>92.3</td></tr></table> 対象において、肯定回答は指標を達成した。 【次年度の方針】 引き続き、児童主体の特別活動の実施を推進する。児童が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という意識の高揚を図るために、児童の発想を生かした活動を保障する場を設定していく。	教職員	91.3	児童	92.3
	教職員	91.3					
児童	92.3						
			B				

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・「児童は、健康や安全に気を付けて生活している (A4)」では、児童・保護者ともによい結果であった。
- ・「児童生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている (A5)」「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている (A17)」については、児童がよい結果であった。
- ・「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している (A11)」「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている (A12)」「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である (A13)」「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている (A14)」について、児童は良好な結果であったが、保護者の評価はよいとはいえない。
- ・「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している (A2)」「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である (A13)」「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている (A18)」について、地域からよい評価を得られた。
- ・「児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている (A6)」「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる (A15)」「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている (B2)」について、職員の肯定的回答が前年度より低下している。
- ・保護者の回答率が昨年度より 10%増えて 58%になったが、保護者全体の傾向をとらえることができたとは言い難い。

7 学校関係者評価

【全般的事項について】

- ・先生方が熱心に関わってくださっていてありがたい。今後ともよろしく願いたい。
- ・児童に主体性を持たせた取り組みは素晴らしいと感じた。学校の努力を大いに感じた。
- ・HP に学校の様子がこまめにあがっているので、楽しく拝見している。もっとアピールしてもよい。
- ・子供、保護者、教職員、地域に関わる人すべてが多様化している。今後は、もっと価値観の多様化への対応を考えてみんなどで話していくのもいい。
- ・朝のあいさつが自分からできる子供が多い。
- ・「あいさつ運動」。いつの時代も「あいさつ」は人格形成に必要だと思うので続けてほしい。
- ・どんな時代でも、互いをリスペクトすることは、普遍的であり、社会で大切なこと。そのため、人のよい面を見ていくことが重要。地域の立場の私たちみんなが緑が丘小を守っていくべきだと思う。
- ・子供を預かる立場から見て、保護者がもっと子供に関心をもってもらいたい。最近の保護者は自分事だけで他人任せで過ごしているのが気になる。
- ・保育園の立場で幼少期にできることとして、子供たちにきまりやマナーを日頃から身に付けていくことが、小学校やその後の子供の育ちにつながっていくのではと感じた。
- ・教職員と保護者とのコミュニケーションの機会を増やしてほしい。
- ・保護者も働く人が増えて、学校や地域行事への参加等が難しく、学校行事等への不満や不安が出てきている。今後、学校では丁寧な対応をして意見をしっかり聞いていくようにしていくとよい。
- ・B2 アンケート結果で教員と児童・保護者と乖離がある部分が気になる。先生たちの評価がダウンしている要因は分析されていると思うが気になった。

【うつのみや学校マネジメントシステム評価方法について】

- ・システム全体に改善の積み重ねが感じられる。また、随所に揺るぎない「包括性」がうかがわれ、初等教育の見事さも。
- ・アンケート結果は、評価時期における当事者の課題意識と評価規準の高低等に少なからず影響を受けているので、データの分析においては 5%以内程度の変動は「ほぼ横ばい」、10%程度の変動については 3~4 年ぐらいの推移に照らした評価が必要。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

- ・ 児童一人一人が、「自分たちの学校は自分たちでつくる」という意識をもち、児童会活動や学校行事を中心として、教職員と協働して主体的な教育活動につながる活動を今後も探っていく。
- ・ 教職員と保護者、地域の人々とのコミュニケーションの機会の場を数多く設定することで、緑が丘小学校で育てたい児童について共通理解を図り、協力して児童に関わっていく体制づくりを進めていく。
- ・ 教職員が、学校の課題や児童に関して共通理解を図る場を増やして解決に取り組めるようにしたり、「働きがいのある」「働きやすい」環境づくりを進めたりすることで、チームとして児童への対応を目指していく。

【学習指導】

- ・ 今後とも、「宇都宮モデル」を通した教職員による分かる授業を進めるとともに、教職員自身が自らの学びを主体的・協働的に行い、児童たちの学びのモデルになるよう研修を深めていく。
- ・ 児童一人ひとりが主体的に学び、基礎的な学力の定着を図るため、学ぶ目的を明確にし、学び合いを大切にした学習環境づくりに努める。児童の主体性やコミュニケーション能力を育み、豊かな人間関係の構築を目指す。
- ・ 児童自ら、学びへの興味・関心をもつことができるよう家庭学習を工夫していくとともに、保護者と連携して学ぶ意義を共有して児童の基礎的な学力の定着を図っていく。

【児童生徒指導】

- ・ 「緑が丘小生活のきまり」を教職員と児童で共通理解し、相手意識を育て、マナーを守ることの大切さ等を育む指導を日常的に行っていく。
- ・ いじめや不登校等対策については、今年度の組織的な取り組みを継続し、アンケート結果や教育相談等で得た情報を蓄積し教職員で共有し合い、常に未然防止や早期発見・早期対応に努める。また、不登校を生まない学級経営を日頃から意識し人間関係や自己肯定感を高めるための指導を充実させる。
- ・ あいさつについては、学校・家庭・地域が連携を図り、協力して指導する体制づくりを行う。あいさつ運動や生活目標は、今年度同様に、児童会活動を中心に児童が主体的に活躍できる場を設け、児童の主体性を生かしながら地域・保護者と連携した取り組みになるように工夫していく。

【健康(保健・食育)体力】

- ・ 今後も、児童の実態や課題について教職員で共通理解を図り、日頃から児童自身が自らの健康や安全を意識して生活できるよう指導に努める。
- ・ 日常の安全指導や避難訓練などにより、児童の危機意識を高め、自ら判断して自己の命を守る行動力を育成する。
- ・ 児童が、安心・安全な学校生活を送ることができるよう、日常的に学校環境を整えとともに、地域の方と連携しボランティアの充実を図る等、安全な学習環境づくりを行っていく。